

殺菌剤

プロポーズ®

顆粒水和剤

べと病・疫病に
2成分で優れた効果

予防

治療

と

残効性

耐雨性



100g

500g



殺菌剤

プロポーズ®

顆粒水和剤

殺菌剤分類 40.M5

- 有効成分：ベンチアバリカルブイソプロピル.....5.0%
TPN.....50.0%
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)

詳しい使い方、
登録内容とSDSは
こちらから



特長

1 2つあわせて優れた効果

べと病・疫病に対し予防効果・治療効果の高い**ベンチアバリカルブイソプロピル**と、幅広い病害に予防効果の高い**TPN**との混合剤です。感染前から感染初期の散布でべと病・疫病に卓効を示します。

2 タフな殺菌剤

葉内への浸透性に優れ、**長い残効性**や**高い耐雨性**を有し、安定した防除効果が期待できます。また、既存剤に**抵抗性**を示す各種耐性菌にも効果を発揮します。

3 使いやすい!

散布液調製時に粉立ちが少なく溶けやすい**顆粒水和剤**です。

■適用病害及び使用方法

2024年10月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール 当り 使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	ベンチアバリカルブ イソプロピルを含む 農薬の総使用回数	TPNを含む農薬の 総使用回数						
きゅうり	べと病	1000~1500倍	100~ 300ℓ	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内	14回以内 (土壌灌注は2回以内、散布、 常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は合計12回以内)						
	褐斑病、うどんこ病、黒星病	1000倍												
トマト	疫病	1000~1500倍							1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布	3回以内	6回以内 (土壌灌注は2回以内、散布、 常温煙霧、くん煙及び エアゾル剤の噴射は合計4回以内)
	葉かび病	1000倍												
ミニトマト	疫病	1500倍							1000倍	収穫7日前まで	2回以内	散布	3回以内	2回以内 (は種又は定植前の土壌混和は 1回以内、散布及び 無人航空機散布は合計2回以内)
はくさい	べと病、白さび病 黒斑病、白斑病													
ブロッコリー	べと病	1000倍		250倍 32倍 16倍	出蕾前但し、 収穫21日前まで	3回以内	無人航空機 による散布	5回以内	3回以内 (土壌灌注は1回以内、散布及び 無人航空機散布は合計2回以内)					
かぼちゃ	べと病、疫病、うどんこ病													
すいか	褐色腐敗病、炭疽病													
アスパラガス	疫病													
たまねぎ	べと病、白色疫病、灰色かび病	1000倍	250倍 32倍 16倍	収穫7日前まで	5回以内	無人航空機 による散布	5回以内	3回以内 (土壌灌注は1回以内、散布及び 無人航空機散布は合計3回以内)						
ばれいしょ	疫病 夏疫病													
なす	褐色腐敗病、すすかび病													
メロン	べと病、つる枯病													
キャベツ	べと病	1000倍	100~ 300ℓ	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内	4回以内 (は種又は定植前の土壌混和は1回以内、 散布、無人航空機散布及び エアゾル剤の噴射は合計2回以内)						
	べと病	32倍							3回以内	無人航空機 による散布	3回以内	4回以内 (土壌灌注は1回以内、散布及び 無人航空機散布は合計3回以内)		
ねぎ	べと病	16倍		収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内	2回以内						
だいず	茎疫病、べと病、紫斑病	1000倍							100~ 300ℓ	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内	3回以内
らっきょう	白色疫病													

上手な 使い方

- 長い残効と予防、治療効果を活かし、べと病や疫病の重点防除期での使用をお勧めします。
- 治療的散布でも卓効を示しますが、病気がまん延してからの散布では効果が劣りますので、初発病斑を見つけたら直ちに散布し、病気のまん延を防ぎましょう。
- 病害を効果的に防除するために、発生予察を心がけましょう。

⚠ 使用上の注意事項 (抜粋)

- 散布量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節してください。
- 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
 - 散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 散布中、薬液が漏れないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - 散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域の諸物件に十分留意してください。
 - 散布終了後、機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
 - ねぎに使用する場合は、葉面に薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際の散布では注意してください。

- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないよう注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- あんずに対して葉害を生じるおそれがあるので、付近にある場合はかからないよう注意してください。
- ばれいしょに対して希釈倍数250倍で散布する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した兼用型の手動式地上液剤散布装置を使用してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。

⚠ 安全使用上の注意

- 粉末は眼に対して強い刺激性があるので、散布液調製時には保護眼鏡を着用して眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 皮に対して刺激性があるので皮に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。

- 散布の際は農業用マスク、手袋、不透水性防除などを着用するとともに保護クリームを使用してください。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服などは他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようし、施用した作物などとの接触を避けてください。
- 夏期高温時の使用を避けてください。
- 水産動物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池などに飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、河川、養殖池等に飛散しないよう特に注意してください。使用残りの薬液が生じないよう調整を行い、使い切ってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川などに流さないよう適切に処理してください。
- 保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、冷蔵・乾燥した場所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記載しましょう。

本資料は2024年10月現在の知見に基づき作成しています。2460(24-12)